

いいおはなし絵本

ネズミのよめいり



やのれいじ ぶん・え

むかし むかし、おやしきの やねうらに

ネズミの ふうふが すんでいました。

ネズミの ふうふに あかちゃんが うまれました。

とうさんネズミも かあさんネズミも あかちゃんを
たいせつに そだてましたので、かわいい むすめに
なりました。

sample



むすめが としごろに になると、とうさんネズミは
おむこさんを だれに するか しんばいに なりました。

「くらに すむ ネズミの ネズ吉きちさんが いいわ。」
と、むすめネズミは いいました。

それには、とうさんネズミは だいはんたいです。
「わたしの むすめは、かわいくて うつくしい。
よめに やるのは せかいで もっとも りっぱな かたで
なければ。」



すると、かあさんネズミは、

「りっぱな かたと いえば、お日ひさまですよ。お日ひさまは
せかいを すみずみまで あかるく てらして くれます。」
と、いいました。

「そうじゃ、そうじゃな。」

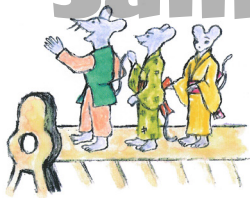
とうさんネズミは うなずいて いました。





さっそく、ネズミの おやこは おやしきの やねに
のぼりました。

「お日さま。あなたは おおきく あかるくて、せかいの
すみすみまで てらして くれる。せかいで いちばん
りっぱな かただと おもいます。ぜひ、うちの むすめを
よめに もらって ください。」
と、とうさんネズミは いいました。



「おじょうさんは、すてきな かたです。

でも、^{くも}雲さんが くれれば、わたしは すっかり

かくれて しまう。だから、^{くも}雲さんの ほうが わたしより

ずっと りっぱな かただと おもいますよ。」

そういった ^ひお日さまは ^{くも}雲さんの なかに かくれて
しまいました。



くも
雲さんが できたので、

とうさんネズミは さっそく こえを かけました。

くも
「雲さんは お日さまさえ かくして しまう せかいで
いちばん りっぱな かたです。どうか、うちの むすめを
よめに もらって ください。」



「いえ いえ、わたしより りっぱな かたが いますよ。」

「えっ、それは どなたですか？」

と、とうさんネズミが ききました。

かせ
「風さんですよ。どんなに わたしが がんばっても

かせ
風さんが ふけば とばされて しまう。」



sample

やがて、風^{かぜ}さんが ふきだし、雲^{くも}さんは ちりぢりに
なっ て しま いました。

「風^{かぜ}さん、風^{かぜ}さん。おねがいです。どうか、わたしの
むすめを よめに もらっ て くだ さい。」

「どうして、わたしを えらんだのですか？」

「風^{かぜ}さんは、雲^{くも}さんを ふきとばす せかいで いちばん
りっぱな かただからです。そんな かたの ところ
に うちの むすめを よめに いかせたい。」



ためしよみ

は

ここまでです